

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「ティンガティンガ」って知ってる？パート④～

・・・パート④です。「ティンガティンガ」というアフリカのペンキアートに魅了されて、単身アフリカに向かい、タンザニアのブンジュ村で生活しながら、絵を学ぶと同時に、村長や村人との交流により「人の生き方の本質」を学んだというSHOGEN（ショーゲン）さん。

そのブンジュ村で、SHOGENさんが洗濯をしていた時のお話です。

ブンジュ村では・・・失敗した人には・・・「OOらしいね。」「OOいいね。」と言うそうです。

ある日、僕が洗濯していた時のことです。当然手洗いなんですけど、いつもきれいに洗えず、それをごまかして干していました。その様子を見ていた、ママ・ジャネッティが言いました。

「ショーゲン、洗濯物をちゃんと洗えないってこと、うちの子にも言ってあげて。」

僕は一瞬バレた!と思って、気まずかったのですが、ママ・ジャネッティは続けて言いました。

「失敗しても誰も責めないわよ。だから子どもの前で、失敗を隠すのはやめてね。失敗する大人を見るから、子どもは安心して未来が描けるんじゃない？」

日本では、失敗しないように大人はみんな頑張っています。でもこの村は違います。大人が失敗するのを見せることで、子どもはできないことは恥ずかしいことじゃないとわかり、失敗を恐れない子どもになると考えるのです。

その夜、村長がやってきて、こんな話をしてくれました。

「たとえば、ショーゲンがこの村でライブペイントをするとする。ティンガティンガは黒・白・赤・青・黄色・緑の六色で描くわけだけど、たまたま黄色を忘れたとする。そんな時はどうしたらいいと思う？」

僕が、じっと村長を見つめて考えていると・・・村長が言いました。

「そういう時は、みんなに黄色を忘れてしまったって、正直に言ってほしいんだ。そうしたら子どもは大人でもそんなことするんだって安心できるでしょう？」

なるほど・・・。続けて村長はこう聞いてきました。

「じゃあ、ショーゲンが黄色を忘れてきた時・・・

大人はショーゲンにどんな言葉を書けたらいいと思う？」

え？なんだろう・・・。

「この村の大人は『人間らしいね』『かわいいね』って言って

あげるんだ。生きていく上で一番大切なのは人間らしさ。

年を重ねれば重ねるほど、完璧になっていくんじゃないだよ。

人は年を重ねれば重ねるほど、人間らしくなっていくんだ。」

「今日、誰のために生きる？」～アフリカの小さな村が教えてくれた幸せがずっと続く30の物語～

ひすいこたろう×SHOGEN（廣済堂出版）



失敗やヘマをすることは恥ずかしいことじゃない。人間らしい行為であり、かわいい行為だっていうんです。不完全な存在であるからこそ・・・愛される存在ということなのでしょう。

だから、失敗し時は、ブンジュ村では「そんな私って・・・かわいくない？」って言うそうです。

そして、そんな様子を・・・そのまま・・・子どもに見せることで、・・・子どもは・・・

「完璧じゃなくていいんだ!」と自分を肯定できるようになるんだそうです。

よし!・・・失敗したときには・・・まずは・・・自分に・・・使ってみませんか？

「そんな僕・私って・・・人間らしいでしょ。かわいいでしょ。」ってね。(*^-^*)

さあ。期末考査が始まります。通心（信）はお休みしますね。